

OCF 検定認証ソフトウェアの詳細内容について

△△△-CAD				
カテゴリ/クラス	CAD / CC3	認証番号	12345678901	
会社名	株式会社〇〇〇	更新日	2008/01/01	
ソフトウェア名称	△△△-CAD シリーズ	バージョン	3.0	
製品情報ページ	http://www.kk-〇〇〇.co.jp/product/△△△-CAD			
主な適用分野	建設業向け汎用CAD			
シリーズ認証	1.〇〇-土木 2.〇〇-建築 3.〇〇-設備 4.〇〇-官公庁			
対応詳細	実装項目		制限事項の内容	
	幾何情報			
	文字フォント	描画	△プロポーショナルフォントも等間隔に表示する。	
特記事項	SXF変換における、このソフト特有の留意事項 一覧にリンク (★次ページ参照)			
	SXF変換時の留意点	SXF変換時の留意事項一覧(pdf)		
製品に関する 問合せ先	〇〇〇〇 △△部 製品サポート課 tel:03-1234-5678			
ソフトのバージョン 認証の履歴	バージョン	認証日	対応	備考
	1.0	2005/04/01	制限あり	SXFVer2認証(12345678900)
	2.0	2006/04/01	制限あり	
	3.0	2007/04/01	上記参照	SXFVer3認証(12345678901)
		2007/04/01	"	CC3認証

【カテゴリ】
CAD/ビューア/自動製図/コンバータ

【クラス】
CC1/CC2/CC3

記載内容の更新日

ベンダーの製品情報ページへリンク

シリーズでの認証の場合、その構成製品名

制限事項がある場合

SXF変換における、このソフト特有の留意事項
一覧にリンク (★次ページ参照)

ソフトのバージョン

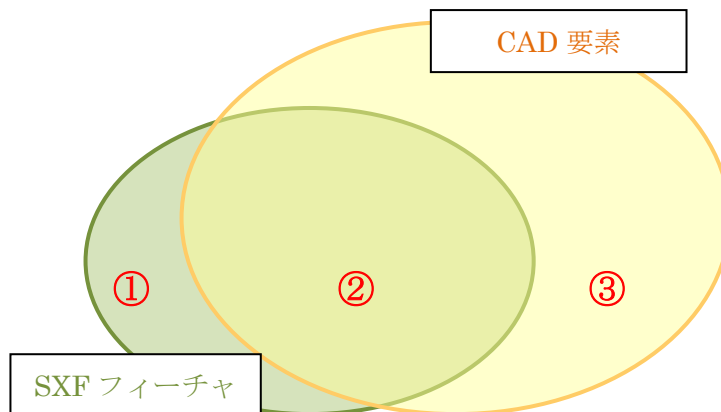
認証には有効期間が
あります。

過去バージョンの制限事項

要素	作成	描画	保持	制限事項の内容
I - 図面構造				
1. 用紙	○	○	○	
2. レイヤコード	○	○	○	
3. 既定義線種コード	○	○	○	
4. ユーザ定義線種コード	△	○	△	作成:0.01mm未満のピッチが指定できません。 保持:0.01mm未満のピッチは0.01mmに変換します。
5. 既定義色コード	○	○	○	
6. ユーザ定義色コード	○	○	○	
7. 線幅コード	○	△	○	指定線幅通りの描画は行いません。
8. 文字フォントコード	○	△	○	プロポーショナルフォントも固定ピッチフォントと同様に等間隔に表示します。
II - 幾何要素/表記要素				
1. 点マーカ	○	○	○	
2. 線分	○	○	○	
3. 折線	○	○	○	
4. 円	○	○	○	
5. 円弧	○	○	○	
6. 楕円	○	○	○	

この表を標準としていますが、記載と様式は任意です。
各社の Web サーバーへのリンクの場合もあります。

SXF変換時の留意事項				
ソフト名	△△△-CAD シリーズ ver.3.0			
1. SXFフィーチャに対応するCADの要素がない 下図の①の部分です				
分類	SXFフィーチャ	SXF読み込み時の変換方法と留意点		
2. SXFフィーチャに対応するCADの要素に仕様の差異がある 下図の②の部分です				
分類	SXFフィーチャ	対応するCAD要素	SXF読み込み時の変換方法と留意点	SXF出力時の変換方法と留意点
図面構造	線幅	ペン		SXFの仕様では線幅単位で表示/非表示の規定がないので、非表示にしているペンについても全て表示状態で出力されます。
	部分図	レベル		SXFの仕様では部分図単位で表示/非表示の規定がないので、非表示にしているレベルについても全て表示状態で出力されます。
3. CADの要素に対応するSXFフィーチャがない 下図の③の部分です				
分類	CAD要素		SXF出力時の変換方法と留意点	
構造化要素	プロットマーク		中心点を点フィーチャの「dot」、その他を線分や円フィーチャに分解して変換します。	
	塗潰し		ハッチング(塗り)フィーチャに変換します。透過情報は出力されませ	
幾何要素	クロソイド曲線・縦断曲線		折線フィーチャに分解して変換します。	



① SXF フィーチャに対応する CAD の要素がない

OCF 検定では、CAD 側に対応要素がなくても何らかの形で SXF データを保持することが求められており、該当する記載はほとんどありません。

② SXF フィーチャに対応する CAD の要素に仕様の差異がある

何らかの変換が必要となります。CAD の設定や編集・変換時の操作によっても異なる結果となる可能性があり、要注意です。

③ CAD の要素に対応する SXF フィーチャがない

代表的な要素として、複雑な寸法や高度な曲線、OLE オブジェクト等があります。データ交換を重視するなら使用しないほうが良いですが、使用する場合は CAD の仕様の理解が必要です。